



11月の歳時記(霜月/November)

向寒の折、くれぐれも…



★ 立冬

霜降から数えて15日目頃。

立冬とは、冬の始まりのこと。

『立』には新しい季節になるという意味があり
立春・立夏・立秋と並んで季節の大きな節目、その季節の到来を意味します。

(これらを『四立(しりゅう)』と言います)

朝夕の冷え込み、日中の日差しも弱まって来て、冬が近いことを感じさせる頃、鮮やかだった木々の葉も段々と色褪せ、冬枯れの様相が目立つようになります。そして、日が暮れるのも一段と早まり、いよいよ冬の訪れを感じます
冷たい木枯らしが吹き、北国からは初雪の便りも届き始め、冬の佇まいと変わっていきます
暦上では、この日から立春の前日までが冬。

★ 木枯らし1号 『木枯らし』とは、秋から冬へと変わる時季に、北寄りの冷たく強い風の事。東京・大阪では『木枯らし1号』を発表します。この条件は、10月半ばから11月末にかけて、西高東低の冬型気圧配置になったとき、初めて吹く『風速8m』以上の北寄りの風を「木枯らし1号」と認定します。木枯らしの翌日は穏やかな好天が多く『小春日和』といわれる所以。

★ 時雨(しぐれ) 主に秋から冬にかけて起こる、一時的に降ったり止んだりする雨の事。広い地域に一樣に降るのではなく密集した雲の団塊から降るやや強い雨で雲足は速い。時雨が降る天候に変わることを『しぐれる』ともいう。

★ こよみ: 文化の日(3)、立冬(7)、七五三(15)、小雪(22)、勤労感謝の日(23)

I 11月は、品質月間・計量強調月間です。

「原点回帰！ 品質と信頼で築く 豊かな社会」

社会的な経済の動きは、新しい局面を迎えつつあります。経済の発展と共に豊かな社会を生出す、産業界にとって重要な転換期にあります。

この転換期にこそ、確かな品質を創造していくことが、組織に強く求められており、それにより顧客の信頼を勝ち取ることが出来れば、失われた過去からの脱却も可能と思われれます。しかし、残念ながら品質不祥事の問題が継続して繰返し発生しており、信頼回復には程遠い状況にあります。

さらに、働き方改革、職場内心理的安全性確保、生活様式の変化への対応等新たな課題にも対応しつつ、新時代に適合した品質創造のあり方を追求しなければなりません。テーマについてはごくごく当たり前の事でありこの転換期行うべき事を端的に表現しています。顧客の信頼なしには豊かな社会は創造出来ません。着実に守るべき普遍的な考え方を大切に、確かな品質創造を実践していきましょう。



★ 計量協調月間

11月1日は『計量記念日』

計量制度は、貨幣制度と共に車の両輪、経済を支える最も重要な制度です。暮らしには欠かせない『計量』、衣食住・健康・流通・生産・環境等全てにおいて大切なインフラであり、最も重要で基本的な制度です。

職場の『計量』を点検し、『適正な計量管理』の維持向上に努めましょう！

鹿島食品・化学品工場は、適正計量管理事業所の指定を受け、自主的な計量管理を推進しております。

II 秋季全国火災予防週間(11月9日～15日)《守りたい未来があるから火の用心》

重点項目:地震火災対策の推進、住宅防火対策の推進

推進項目:防火対象物等における防火安全対策の徹底、製品火災の発生防止に向けた取組の推進

多数集合の催しに対する火災予防指導等の徹底、乾燥時及び強風時の火災発生防止対策の推進



その変化 気づいた時に再確認 危険を見つけて ゼロ災害職場 安全に！